

昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率

昼間人口は155,922人、昼夜間人口比率は80.0、平成22年から1.3ポイント上昇

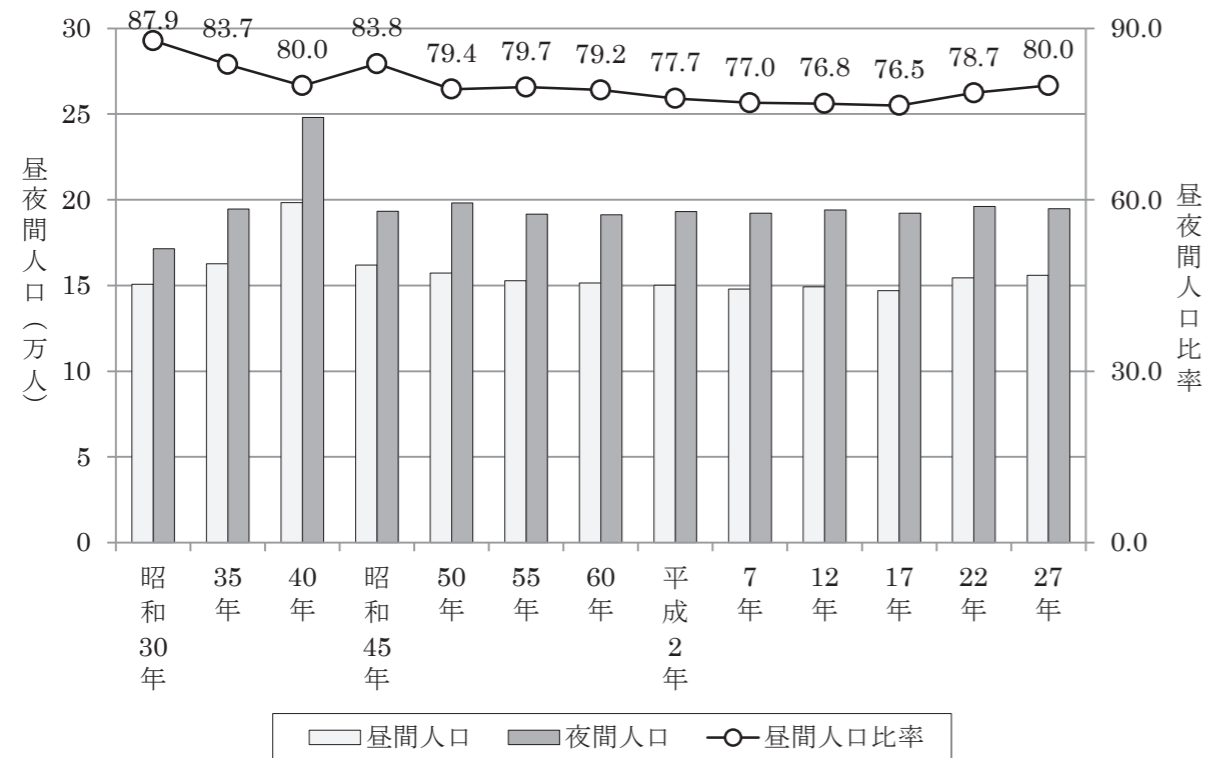
南区の昼間人口は、155,922人となっており、昼夜間人口比率（夜間人口100人当たりの昼間人口）は80.0で、平成22年から1.3ポイント上昇しています。

昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率は、概ね横ばいで推移しています。

昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率（昭和30年～平成27年）

	夜間人口 A	流入人口 B	流出人口 C	流入超過人口 B-C	昼間人口 D	昼間人口比率 D/A×100
昭和30年	171,525	10,431	31,264	-20,833	150,692	87.9
35年	194,558	17,418	49,216	-31,798	162,760	83.7
40年	248,108	24,789	74,498	-49,709	198,399	80.0
45年	193,221	25,961	56,926	-30,965	161,939	83.8
50年	198,187	25,974	66,485	-40,511	157,264	79.4
55年	191,711	30,317	69,178	-38,861	152,850	79.7
60年	191,194	33,281	73,030	-39,749	151,445	79.2
平成2年	193,160	37,030	80,067	-43,037	150,123	77.7
7年	192,186	35,554	79,824	-44,270	147,916	77.0
12年	194,126	30,851	75,832	-44,981	149,145	76.8
17年	192,090	28,852	73,973	-45,121	146,969	76.5
22年	196,153	26,264	68,030	-41,766	154,387	78.7
27年	194,827	25,696	64,601	-38,905	155,922	80.0
横浜市 27年	3,724,844	418,231	727,015	-308,784	3,416,060	91.7

昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率（昭和30年～平成27年）



行政区別昼夜間人口比率

昼間人口は18区中13位、昼夜間人口比率は18区中14位

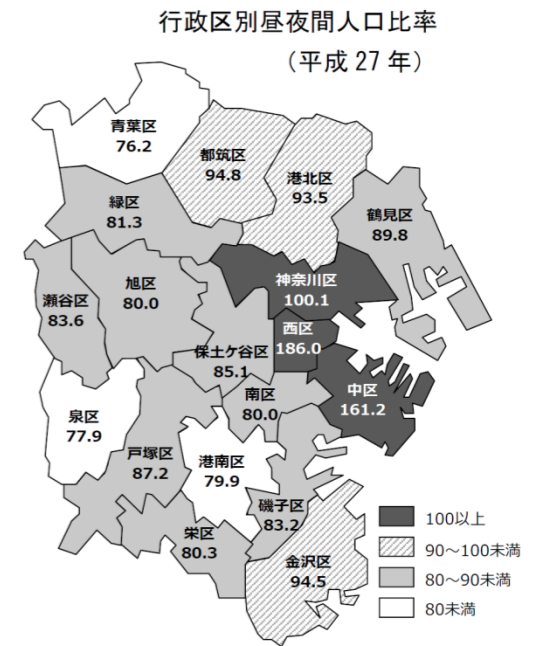
昼間人口を行政区別にみると、港北区が321,887人で最も多くなっています。昼間人口が最も少ないのは栄区で、少ない順から瀬谷区、泉区、磯子区、緑区に次いで、南区の昼間人口は18区中13位となっています。

昼夜間人口比率を行政区別にみると、西区が186.0で最も高くなっています。南区の昼間人口比率は18区中14位となっており、横浜市全体と比べても11.7ポイント低く、比較的低い昼間人口比率となっています。

昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率—行政区（平成27年）

行政区	昼間人口 A	夜間人口 (常住人口) B	流出人口			流入人口		
			総数 C	就業者	通学者	総数 D	就業者	通学者
横浜市	3,416,060	3,724,844	727,015	637,479	89,536	418,231	360,190	58,041
鶴見区	256,228	285,356	92,302	83,257	9,045	63,174	56,067	7,107
神奈川区	239,244	238,966	83,471	74,425	9,046	83,749	67,008	16,741
西区	183,315	98,532	33,976	30,161	3,815	118,759	112,597	6,162
中区	239,067	148,312	36,467	31,569	4,898	127,222	117,649	9,573
南区	155,922	194,827	64,601	57,627	6,974	25,696	20,305	5,391
港南区	172,449	215,736	73,923	64,401	9,522	30,636	27,303	3,333
保土ヶ谷区	174,863	205,493	70,633	61,789	8,844	40,003	32,026	7,977
旭区	197,752	247,144	78,522	68,979	9,543	29,130	24,690	4,440
磯子区	138,339	166,229	58,022	51,217	6,805	30,132	27,498	2,634
金沢区	191,207	202,229	61,439	53,343	8,096	50,417	40,589	9,828
港北区	321,887	344,172	119,609	104,864	14,745	97,324	80,823	16,501
緑区	146,608	180,366	65,175	56,967	8,208	31,417	23,719	7,698
青葉区	236,079	309,692	116,442	96,878	19,564	42,829	34,020	8,809
都筑区	200,667	211,751	71,750	59,320	12,430	60,666	55,422	5,244
戸塚区	240,167	275,283	89,948	77,486	12,462	54,832	46,361	8,471
栄区	98,138	122,171	42,191	36,718	5,473	18,158	14,586	3,572
泉区	119,946	154,025	52,916	45,445	7,471	18,837	15,421	3,416
瀬谷区	104,182	124,560	39,318	34,614	4,704	18,940	15,687	3,253

行政区	流入超過人口 D-C	昼夜間人口比率 A/B×100	※カッコ内は順位 (参考)	
			平成22年 昼夜間 人口比率	平成22年 ～27年 ポイント差
横浜市	△308,784	91.7	91.5	0.2
鶴見区	△29,128	89.8 (7)	92.0 (7)	△2.2
神奈川区	278	100.1 (3)	99.9 (3)	0.2
西区	84,783	186.0 (1)	179.7 (1)	6.3
中区	90,755	161.2 (2)	166.6 (2)	△5.4
南区	△38,905	80.0 (14)	78.7 (14)	1.3
港南区	△43,287	79.9 (16)	78.4 (15)	1.5
保土ヶ谷区	△30,630	85.1 (9)	84.0 (9)	1.1
旭区	△49,392	80.0 (15)	78.8 (13)	1.2
磯子区	△27,890	83.2 (11)	83.8 (10)	△0.6
金沢区	△11,022	94.5 (5)	93.5 (6)	1.0
港北区	△22,285	93.5 (6)	94.0 (5)	△0.5
緑区	△33,758	81.3 (12)	82.6 (11)	△1.3
青葉区	△73,613	76.2 (18)	77.2 (18)	△1.0
都筑区	△11,084	94.8 (4)	96.4 (4)	△1.6
戸塚区	△35,116	87.2 (8)	87.0 (8)	0.2
栄区	△24,033	80.3 (13)	77.8 (17)	2.5
泉区	△34,079	77.9 (17)	77.8 (16)	0.1
瀬谷区	△20,378	83.6 (10)	82.1 (12)	1.5



従業地・通学地別人口

「区内で従業・通学」が20.6%、平成22年より1.3ポイント低下、市内で働く人が70.2%

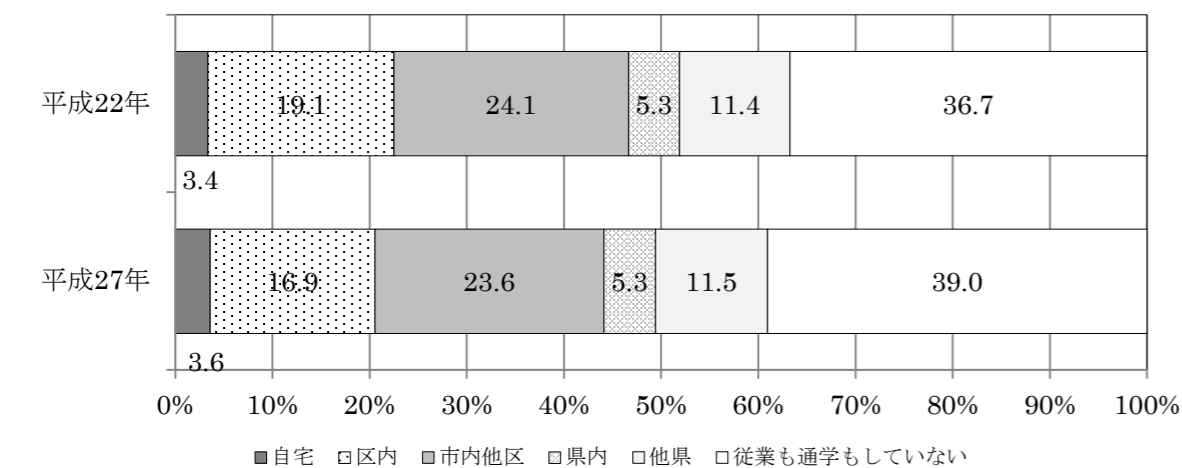
南区の人口(194,827人)における従業地・通学地別人口の割合をみると、「従業も通学もしていない」が39.0%、「区内で従業・通学」が20.6%、「市内他区で従業・通学」が23.6%、横浜市を除く「県内他市区町村で従業通学」が5.3%、「他県で従業・通学」が11.5%となっており、平成22年と比べ、「従業も通学もしていない」が2.3ポイント上昇、「自宅で従業」が0.2ポイント上昇し、「他県で従業・通学」が0.2ポイント上昇しています。

また、就業者(85,944人)の従業地別人口の割合をみると、南区を含めた横浜市内で従業する者が70.2%、横浜市外で従業する者が29.7%となっています。

従業地・通学地別人口(平成22年、平成27年)

従業地・通学地	平成27年		平成22年		対前年比	
	総数	うち就業者	総数	うち就業者	総数	うち就業者
実数						
総数	194,827	85,944	196,153	91,478	-1,326	-5,534
従業も通学もしていない	62,413	-	61,375	-	1,038	-
区内で従業・通学	32,863	23,136	37,626	25,281	-4,763	-2,145
自宅で従業	5,779	5,779	5,651	5,651	128	128
自宅外の区内で従業・通学	27,084	17,357	31,975	19,630	-4,891	-2,273
区外で従業・通学	64,601	57,627	68,030	60,766	-3,429	-3,139
市内他区で従業・通学	37,653	33,587	40,287	35,918	-2,634	-2,331
県内他市区町村で従業・通学	8,483	7,306	8,780	7,652	-297	-346
他県で従業・通学	18,465	16,734	18,963	17,196	-498	-462
不詳	34,950	5,181	29,122	5,431	5,828	-250
割合(%)・ポイント差						
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-
従業も通学もしていない	39.0	-	36.7	-	2.3	-
区内で従業・通学	20.6	28.6	22.5	29.4	-2.0	-0.7
自宅で従業	3.6	7.2	3.4	6.6	0.2	0.6
自宅外の区内で従業・通学	16.9	21.5	19.1	22.8	-2.2	-1.3
区外で従業・通学	40.4	71.4	40.7	70.6	-0.3	0.7
市内他区で従業・通学	23.6	41.6	24.1	41.7	-0.6	-0.2
県内他市区町村で従業・通学	5.3	9.0	5.3	8.9	0.0	0.2
他県で従業・通学	11.5	20.7	11.4	20.0	0.2	0.7
不詳	-	-	-	-	-	-

※割合は不詳を除いて算出



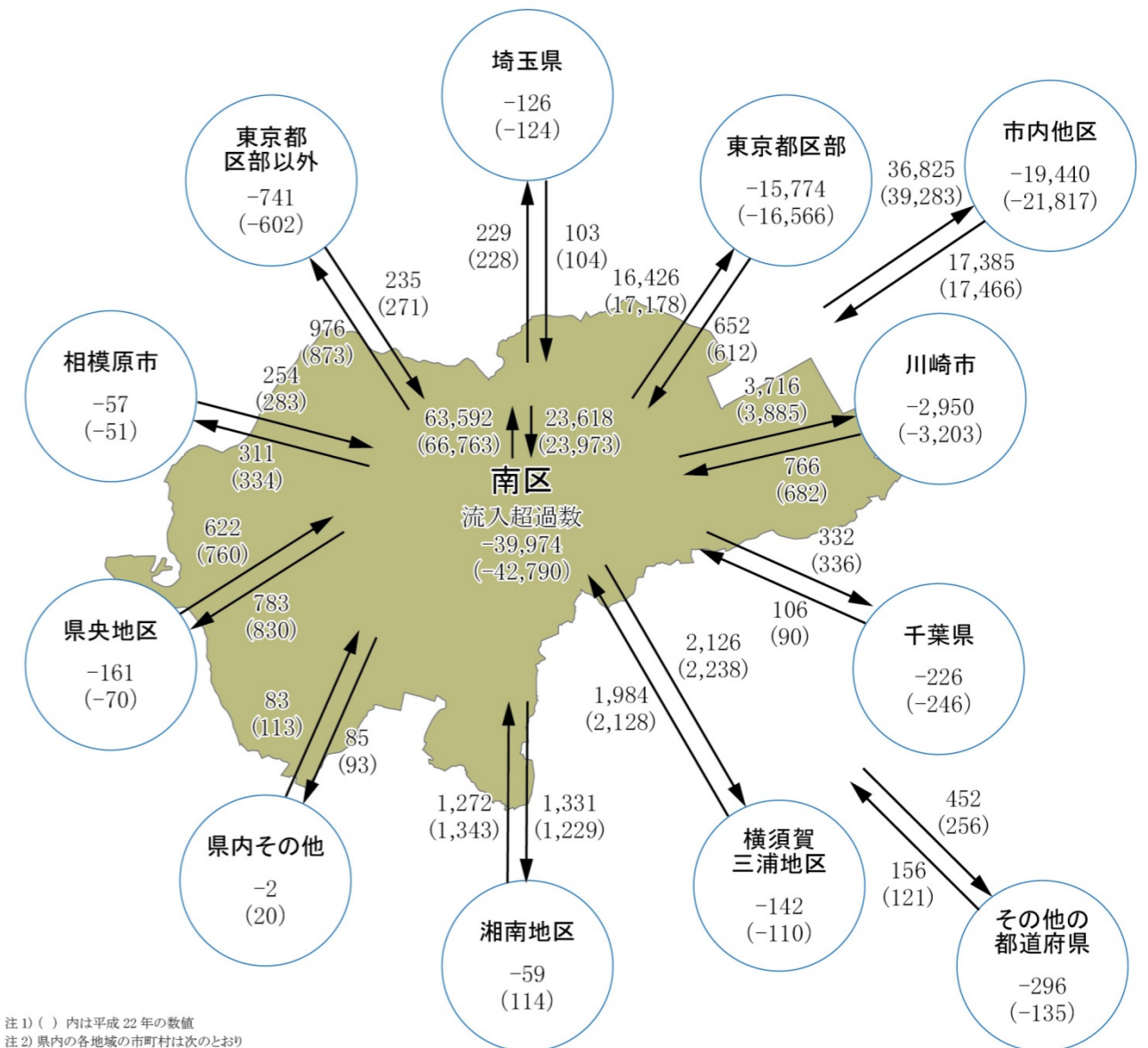
流出・流入人口(15歳以上通勤・通学者)

流出人口の57.9%が市内他区へ、27.4%が東京都へ通勤・通学。流入人口の21.1%が県内の他市町村から通勤・通学。

15歳以上就業者・通学者の南区からの流出人口(区外へ通勤・通学する者)は平成27年で63,592人、南区への流入人口(区外から通勤・通学する者)は平成27年で23,618人となっている。

流出・流入地域別割合をみると、区外へ通勤・通学する者のうち27.4%が東京都へ、区外から通勤・通学する者のうち21.1%が県内の他市町村からとなっている。市外から通勤・通学する者のうち、最も多いのは横須賀市で1,322人(前回比-82人、5.8%減)となっている。流出、流入人口ともに平成22年と比較して減少している。

流出・流入地域別15歳以上通勤・通学者数(平成27年)

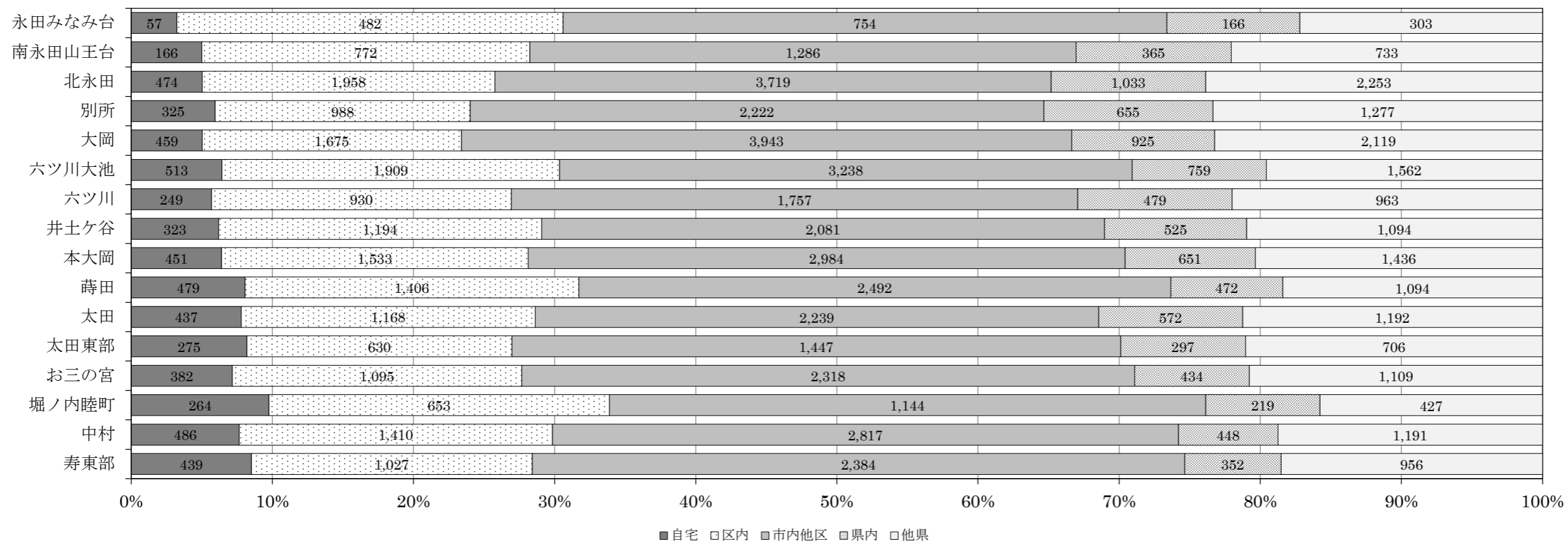


注1) ()内は平成22年の数値
 注2) 県内の各地域の市町村は次のとおり
 横須賀三浦地区 …横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
 県央地区 …厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
 湘南地区 …平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町
 注3) 従業・通学市区町村「不詳・外国」及び従業地・通学地「不詳」は含まない

16 地区別従業地・通学地別人口（15歳以上通勤・通学者）

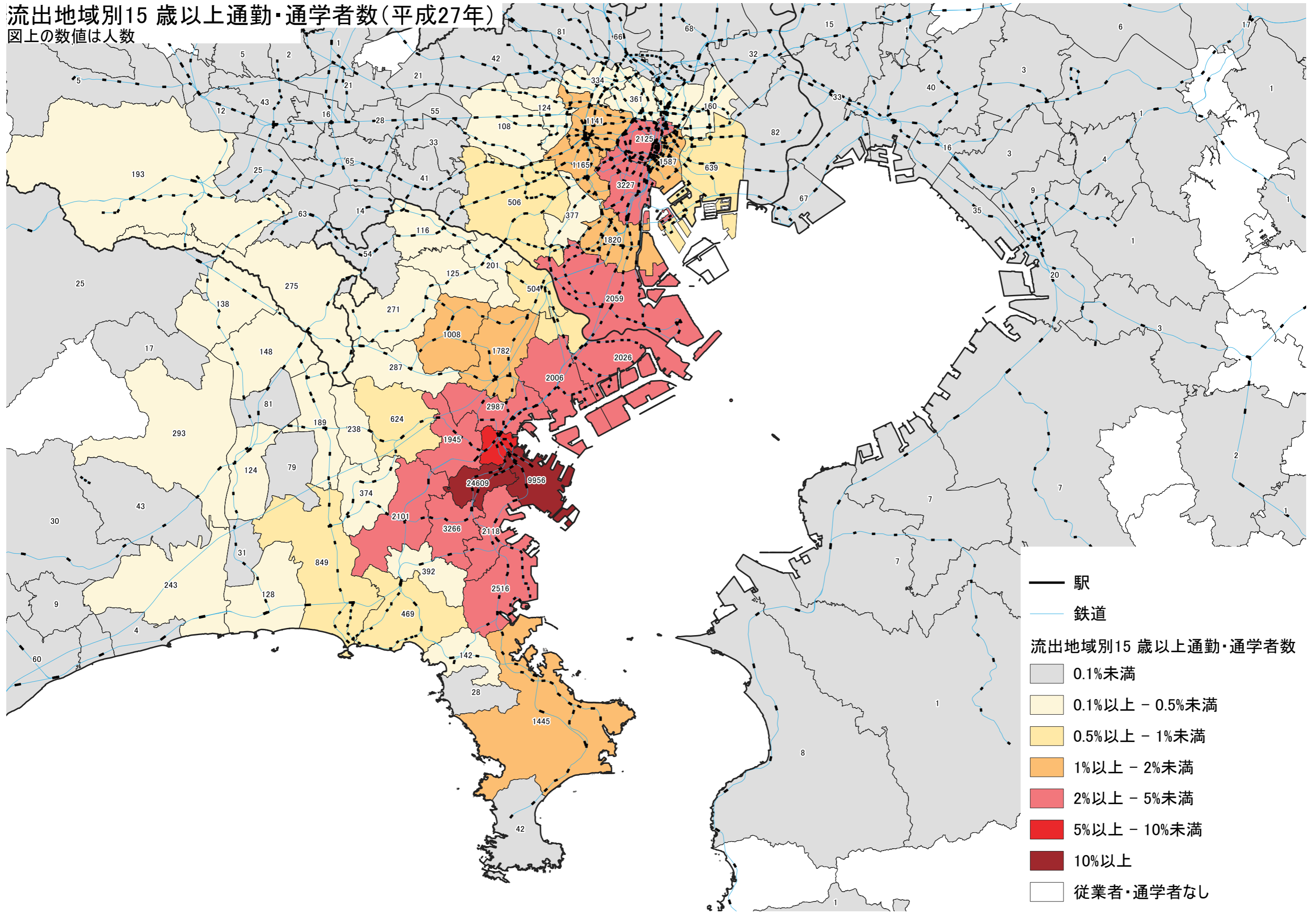
	南区	寿東部	中村	堀ノ内 睦町	お三の宮	太田東部	太田	蒔田	本大岡	井土ヶ谷	六ツ川	六ツ川 大池	大岡	別所	北永田	南永田 山王台	永田 みなみ台
総数（常住地による15歳以上就業者数・通学者数）	93,781	5,816	6,852	2,879	5,801	3,585	5,998	6,405	7,469	5,561	4,601	8,323	9,594	5,683	9,827	3,502	1,885
自市区町村で従業・通学	24,609	1,466	1,896	917	1,477	905	1,605	1,885	1,984	1,517	1,179	2,422	2,134	1,313	2,432	938	539
自宅で従業	5,779	439	486	264	382	275	437	479	451	323	249	513	459	325	474	166	57
自宅外の自市区町村で従業・通学	18,830	1,027	1,410	653	1,095	630	1,168	1,406	1,533	1,194	930	1,909	1,675	988	1,958	772	482
区外・他市区町村で従業・通学	64,270	3,740	4,521	1,812	3,898	2,481	4,051	4,102	5,129	3,746	3,229	5,597	7,042	4,187	7,075	2,415	1,245
自市内他区で従業・通学	36,825	2,384	2,817	1,144	2,318	1,447	2,239	2,492	2,984	2,081	1,757	3,238	3,943	2,222	3,719	1,286	754
県内他市区町村で従業・通学	8,352	352	448	219	434	297	572	472	651	525	479	759	925	655	1,033	365	166
他県で従業・通学	18,415	956	1,191	427	1,109	706	1,192	1,094	1,436	1,094	963	1,562	2,119	1,277	2,253	733	303
従業・通学市区町村「不詳・外国」	678	48	65	22	37	31	48	44	58	46	30	38	55	33	70	31	22
従業・通学地「不詳」	4,902	610	435	150	426	199	342	418	356	298	193	304	418	183	320	149	101
常住地による15歳以上就業者数	85,944	5,436	6,298	2,673	5,414	3,324	5,581	5,925	6,875	5,181	4,167	7,565	8,503	5,123	8,917	3,166	1,796
自市区町村で従業	23,136	1,397	1,761	872	1,399	845	1,517	1,787	1,865	1,439	1,109	2,274	1,980	1,216	2,278	874	523
自宅で従業	5,779	439	486	264	382	275	437	479	451	323	249	513	459	325	474	166	57
自宅外の自市区町村で従業	17,357	958	1,275	608	1,017	570	1,080	1,308	1,414	1,116	860	1,761	1,521	891	1,804	708	466
区外・他市区町村で従業	58,276	3,475	4,131	1,661	3,623	2,297	3,742	3,757	4,666	3,464	2,879	5,003	6,156	3,738	6,352	2,155	1,177
自市内他区で従業	33,587	2,206	2,594	1,057	2,162	1,341	2,071	2,313	2,739	1,929	1,590	2,923	3,408	2,011	3,360	1,165	718
県内他市区町村で従業	7,306	328	399	197	401	265	515	423	566	467	404	657	791	553	887	303	150
他県で従業	16,734	895	1,074	386	1,024	661	1,110	979	1,309	1,022	856	1,386	1,906	1,143	2,038	658	287
従業市区町村「不詳・外国」	649	46	64	21	36	30	46	42	52	46	29	37	51	31	67	29	22
従業地「不詳」	4,532	564	406	140	392	182	322	381	344	278	179	288	367	169	287	137	96
常住地による15歳以上通学者数	7,837	380	554	206	387	261	417	480	594	380	434	758	1,091	560	910	336	89
自市区町村へ通学	1,473	69	135	45	78	60	88	98	119	78	70	148	154	97	154	64	16
自市区町村へ通学	1,473	69	135	45	78	60	88	98	119	78	70	148	154	97	154	64	16
区外・他市区町村へ通学	5,994	265	390	151	275	184	309	345	463	282	350	594	886	449	723	260	68
自市内他区へ通学	3,238	178	223	87	156	106	168	179	245	152	167	315	535	211	359	121	36
県内他市区町村へ通学	1,046	24	49	22	33	32	57	49	85	58	75	102	134	102	146	62	16
他県へ通学	1,681	61	117	41	85	45	82	115	127	72	107	176	213	134	215	75	16
通学市区町村「不詳」	29	2	1	1	1	1	2	2	6	0	1	1	4	2	3	2	0
通学地「不詳」	370	46	29	10	34	17	20	37	12	20	14	16	51	14	33	12	5

※平成 27 年国勢調査より
前頁の表「従業地・通学地別人口（平成 22 年、平成 27 年）」には、15 歳未満通学者を含むため、左記南区の集計とは一致しない。



流出地域別15歳以上通勤・通学者数(平成27年)

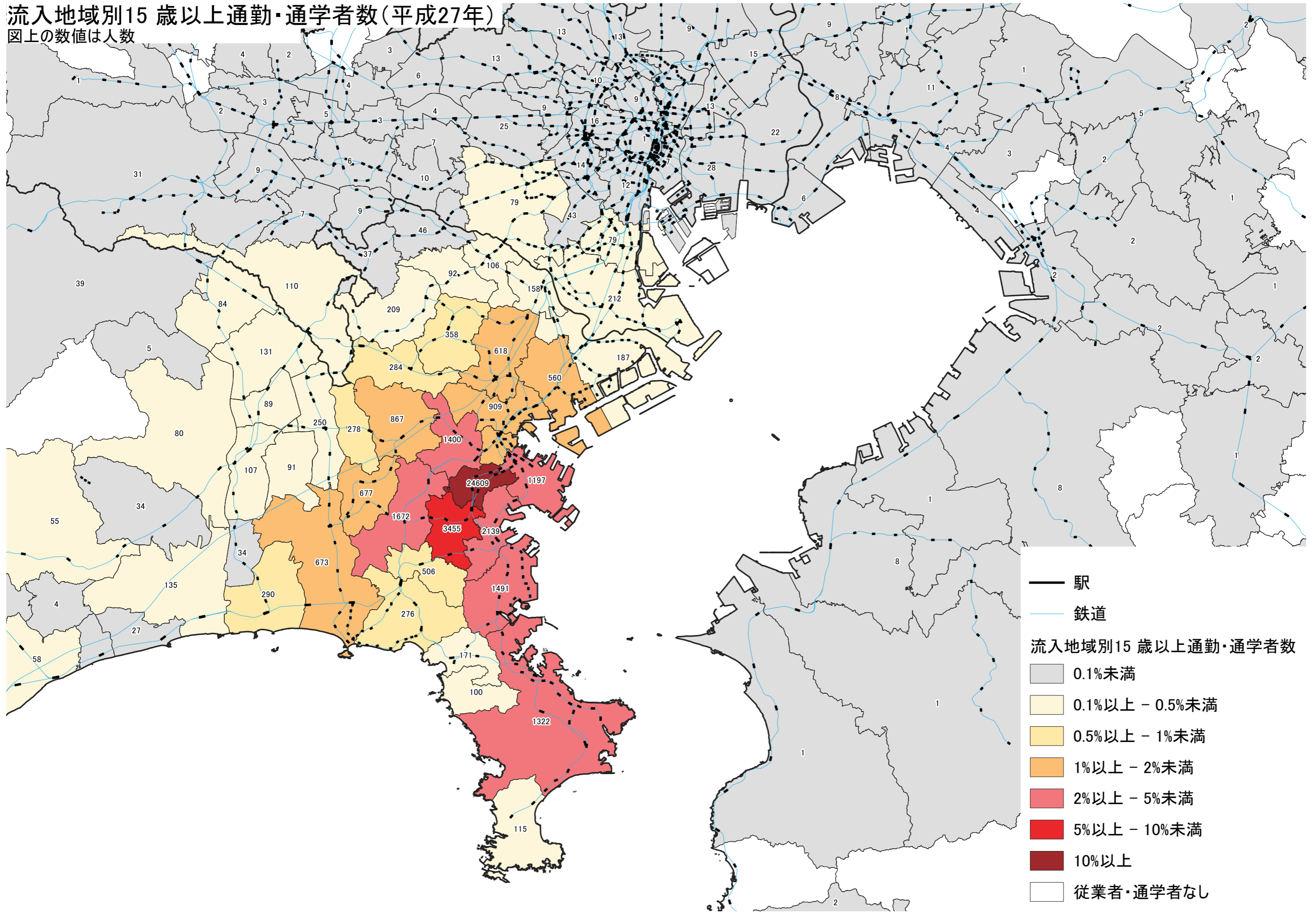
図上の数値は人数



※南区の通勤・通学者総数に対する、各通勤・通学先の通勤・通学者数の割合

流入地域別15歳以上通勤・通学者数(平成27年)

図上の数値は人数



※南区の通勤・通学者総数に対する、各居住地の通勤・通学者数の割合